



目黒の未来に、

無責任でありたくない!

かいでん 和弘

かすひろ

無所属 25歳

Vol. 4 ◆ 2019年 2月 25日発行

Theme 若い世代の区政参画について

プロフィール

- 1993年 ● 11月23日生まれ (25歳)
- 2006年 ● 目黒区立原町小学校 卒業
- 2012年 ● 都立桜修館中等教育学校 卒業 (旧 都立大学附属高校)
- 2016年 ● 北海道大学 法学部 (政治学専攻) 卒業
- 2016年 ● 民間のコンサルティング会社 就職
市区町村の調査・行政計画策定やPR業務に携わる。

特技・趣味 チェロ演奏、剣道 (2段)

好きなもの 野球観戦、水泳、読書、クラシック音楽、旅行、鉄道、歴史研究

こんな目黒をつくりたい (3つの方針)

- 方針1 若い世代も区政へ参画「目黒の未来は自分たちでつくろう」
- 方針2 子育て施策の充実「次の世代はみんな育てる」
- 方針3 ご高齢の方の活動場所の充実「手ごたえのある日々を、目黒区で」

こんにちは。未来志向の目黒区政を実現するため、無所属・最年少で活動中のかいでん 和弘です。

今回は私の目指す3つの方針の中から、方針1の「若者の区政参画」についてまとめました。

↓ 前回の目黒区議選投票率

政治から“遠い”若い世代

来たる4月21日(日)、目黒区議会議員選挙が予定されています。

しかしその区議選、前回(2015年)の投票率を見ると、世代間で大きな差が。

20・30代の投票率は20%台にとどまっています。

10人に2人しか投票しない若者世代と5人以上投票する高齢者世代。

これでは政治家の方が、若者よりも高齢者の意見を重視するのも当然です。

若い世代が政治から“遠い”現状は他にも……

20代	20.9 %
└前半	22.0 %
└後半	20.3 %
30代	28.5 %
40代	37.3 %
50代	44.7 %
60代	54.7 %
70代～	54.0 %
全体	39.3 %

そもそも区政に関心がない

10代・20代の3人に2人が区政に関心ナシ。

区議会の高齢化

平均年齢 54歳(最高齢80歳)
20代議員はゼロ(36人中)。

区の情報が若者に伝わらない

めぐろ区報は20代の10人に1人しか読んでいない。

厳しい目黒区の未来

“高齢社会”や“若者の政治離れ”。

テレビや新聞で散々目にするテーマですが、目黒区内で日常生活を送っていると、そんな問題が進んでいるような実感はわきません。でもこの問題、私たちにとっても決して“他人事”ではありません。

住み心地のいい現在の目黒区。そんな目黒区でもこれから急激な高齢化が進みます。具体的には今後30年で、20～40代の中心世代が5千人減る一方で高齢者が1万9千人も増える推計が出ています。高齢化が進めば、福祉にかかる区の支出が多くなり、しかもそれを数少ない現役世代が負担していかなければなりません。

私は、“高齢社会”と“若者の政治離れ”はこれからの目黒区を象徴する2大テーマだと思っています。

ひと昔前のように、毎年成長して、毎年生活が豊かになる時代なら、別に若者が政治に関心を持たなくともいいでしょう。年上の議員の皆さんにお任せして成長に乗っかればいいのです。でも、これからは違います。未来は厳しくなることが分かっています。である以上、若者は、今のうちから自分の意見を発信して「今までのやり方を続けたらいずれ破綻するから、今のうちから徐々に変えよう」と訴えなければいけないのです。私は若者のひとりとして、“未来の当事者世代”の声を区政へ届けていきます。



かいでん 和弘

かずひろ

無所属 25歳

Theme 若い世代の区政参画について

◆ 2019年 2月 25日発行

私は目指します。

個別の政策の詳細は、次号以降の資料またはブログで記載していきます。

1 若い世代の意見をくみ取る目黒へ

① 区政に若い世代の意見を反映

私自身が若い世代のひとりとして、未来をみすえた長期的視点からの意見を区議会に届けていきます。

また、目黒区の未来に関わる計画を立てる際、若い人向けのアンケートや座談会を実施することで、若い世代の思いを行政施策に反映。また、立てた計画も、分厚い計画書のほかに分かりやすいダイジェスト版を発行することで、目黒区がどこを目指しているのか、若い世代の人に知ってもらう機会をつくります。

② 若い世代の投票率向上

区内の大学や大型スーパー内への期日前投票所の設置や、学生を対象に目黒区の未来に関する政策討論会・模擬選挙を実施するなど、若い人が政治を”自分事”としてとらえ、選挙に関心を持ってもらえるよう取り組みます。

③ 政治活動を区民感覚で

早朝のマイクを使った大音量での演説や選挙カーでの名前の連呼は、私は迷惑に思います。そういうことをしているから、「政治家は国民の生活よりも自分の事情を優先するのではないか」と思われてしまうのではないのでしょうか。政治の世界に浸かっていないからこそ、いち区民の感覚を持って政治活動を実施します。

2 区の情報が変わりやすい目黒へ

① 広報「めぐろ区報」の充実・刷新

今のめぐろ区報は、「〇〇をしました」という一方的なお知らせ（通知）が中心で、区民の政治参画の視点が抜け落ちています。「〇〇をしました」ではなく、「〇〇をします」という経過をお知らせする広報へ、そしてその経過に対して読んでいる区民が自由に意見を投書できる”対話型”の区報づくりを目指します。

② 情報発信のスマート化

現在区役所で発行されるチラシは、60以上の部署ごとに紙の色も大きさもバラバラで、「これぞ縦割り行政」という状況です。情報発信の媒体数を集約、あるいは規格を統一してスマートにするとともに、ターゲットに応じてSNSやネットを活用し、「発信する」情報ではなく「届く」情報を目指します。

③ 自分からも情報発信

国政や都政とは違って、区政には逐一状況を伝えてくれるメディアはありません。HP・活動報告のビラなどを通し、若い区民の一人としての問題提起・情報発信を行っていきます。

そして、特に若い人の区政への関心度を高めるために、「区役所の若手職員&議会の若手議員で、部署や政党を越えてタッグを組み、同じ若い目線から見た目黒区の現状や問題点を解説し、議論が割れる点を両論併記する」といった新たな情報発信の方法を模索していきます。



後援会 **かいでん応援団**

〒152-0013 東京都目黒区南1-1-11

☎ 090-3145-1156

✉ kazukaiden@gmail.com

HP・フェイスブックにて、活動記録を公開中です。

ラインからもお問い合わせ可能です。

かいでん和弘

🔍 検索

<https://www.kazu-kaiden.com>

